令和４年度
(2022 年度)

学校関係者評価報告書

令和４年(2022 年) ４月 １日から
令和５年(2023 年) ３月 31 日まで

令和５年(2023 年) ８月 25 日

学校法人吉田学園
北海道スポーツ専門学校

■令和４年度　学校関係者評価について

〈説明〉

自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高め、本校と密接に関係する卒業生・関係業界・専門分野の関係団体等の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ること等を目的に学校関係者評価を行いました。

１. 実施日時

令和５年８月 25 日（金）　16:30～17:30

２. 実施場所

北海道スポーツ専門学校１号館　501 教室

３. 実施方法

（1）実施組織　学校関係者評価委員会

評価委員　小野寺　隆彦　一般社団法人日本フットサルトップリーグ専務理事

金子　　知　社会医療法人朋仁会整形外科北新病院

スポーツ医科学センター長・リハビリテーション部長

中西　　康隆　ていね駅南口治療室代表

吉田　　丘　公益財団法人北海道スポーツ協会事務局次長兼総務・会計課長

〇学校関係者

滝本　　玲　　北海道スポーツ専門学校　校長

大森　　達也　　北海道スポーツ専門学校　副校長

齋藤　　敬男　　北海道スポーツ専門学校　学科長

今北　　雄太　　北海道スポーツ専門学校　副学科長

藤田　　真　　北海道スポーツ専門学校 iB 事業部　副部長

千保　　大聖　　北海道スポーツ専門学校　主任

（2）評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠する

（3）評価方法：令和４年度学校運営・教育活動実績報告書に対する学校関係者評価。

４. 評価項目

次の11項目について実施

（1）教育理念・目標

（2）学校運営

（3）教育活動

（4）学修成果

（5）学生支援

（6）教育環境

（7）学生の受け入れ募集

（8）財務

（9）法令等の遵守

（10）社会貢献・地域貢献

（11）国際交流

５. 評価項目に対する評価

（1）4段階で点数評価しました。

４：適切　３：ほぼ適切　２：やや不適切　１：不適切

(2)委員会で提出された意見や質疑、提案事項

項目 1　教育理念・目標について

・　項目評価　3.8
・　(学校)学校の特色や社会(業界)ニーズと社会的背景等に対応すべく、学校の将来構想を適宜、具体的なものとして明確に打ち出し、共有・周知が必要である。

項目 2　学校運営について

・　項目評価　4.0
・　特に問題はなかった。

項目3　教育活動について

・　項目評価　3.7
・　(学校)体系的に整備されたカリキュラムをベースに、特に資格取得に係る指導体制(担当教員の授業スキルアップ・教育力強化に繋がる関連分野における研修等の実施・参加、組織的管理等)の確立が必要となる。その中でも、資格取得率向上には大きな課題がある。
今後の改善方策について、「専門学校グループ　教育基軸(授業運営)」の活用を推進し、特に資格関連科目の授業スキル、授業力の強化を図り、管理者を交え計画的かつ組織的な取り組みを確立する。また、資格取得において学生のモチベーション維持を目的としたスモールステップの実践を図る。
・　アスレティックトレーナー専任教員の確保に課題があり、改善を図りたい。
・　研修(オンラインセミナー等)への積極的な参加を促し、先端的知識・技能の修得及び実践(展示会、セミナー参加)をすることにより、学生支援も含めた、教員としての資質・能力向上を図る。
・　(委員)教員の現場経験が増えることにより、対象者に応じた指導をより具体的に学生に伝えることができると思う。自分自信がトレーニングを継続しながら指導をする「トレーニー」が増えている。

項目 4　学習成果について

・　項目評価　3.2
・　(学校)資格取得率の向上について、担当教員が中心となり合格率向上に向けた具体策を実施してきた結果、主要資格(アスレティックトレーナー、健康運動指導士、健康運動実践指導者、JATI トレーニング指導者)については前年度よりも向上は見られたが、合格目標値には及ばなかった。他の資格についても十分な安定感を維持できていない。
今後の改善方策として、資格取得へのモチベーション向上、資格取得の必要性を認識できるよう、段階的な目標設定を行い、環境づくりや仕組みを作り、計画的かつ組織的な取り組みにより学生を資格取得まで牽引していく。また、「学内模擬試験を充実させ時期による習熟度の把握・段階的指導」、「補講実施」、「専門学校グループ　教育基軸(授業運営)やそれに付随する各種研修会・勉強会による授業スキル、授業力の強化」、「管理者を交えた経過点(各期の目標点)における到達度合いの確認や修正見直し」等の取り組みを図る。
・　(学校)退学率の軽減について、近年改善が図られつつあったが、目標達成に至らなかった。学生の出席状況含めた学習状況や様子の変化について、早期に把握が図られるよう、組織的な管理体制の構築に努めていく。
今後の改善方策として、当該クラス担任から上長職までの段階的な指導継続を意識し、学生の早期変化に気付き対応できるよう努める。「専門学校グループ　教育基軸(学生指導)」の理解を深めその活用が図られるよう組織的な管理体制の構築に努めていく。

項目 5　学生支援について
・　項目評価　3.9
・　（学校）卒業生の支援体制について、再就職や資格の再受験などに対して随時対応しているのが現状である。継続的に卒業生へアプローチしていく仕組みをつくる。

項目 6　教育環境について
・　項目評価　4.0
・　（委員）施設が整っているので、十分に活用した授業を確立していく。

項目 7　学生の受入れ募集
・　項目評価　3.3
・　（学校）学校全体が広報を意識することとその浸透を徹底しながら活動は行われたが、定員確保には至らなかった。また、資格取得率等、教育成果としては不十分であり改善が求められるものがあった。今後の改善方策として、学校で取り組まれる全てが広報活動であることを理解し、「オープンキャンパス参加者の満足度向上（高い出願率）」、「高校（顧問）との接点強化」、「産業界との連携のPR」、「あらゆる教育活動（資格取得率等）における結果の追究」等を主に全職員が協力体制で臨む。また、より多くの魅力が発信できるオープンキャンパスの在り方について再検討を図る。
・　（委員）時代が変わってきているので、教育的配慮の仕方も難しくなっていると思う。

項目 8　財務について
・　項目評価　3.0
・　（学校）入学者の増加は図られているが、定員確保にまでは至っておらず、今後改善に努めたい。また、予算・収支計画については、有効性や妥当性をより慎重に判断しながら進めていく。今後の改善方策として、学校の知名度を高め続け、それらを募集活動に結び付けられるよう、より一層注力する。併せて休退学者の抑制に最善を尽くす。

項目 9　法令などの遵守について
・　項目評価　3.8
・　（学校）自己点検・評価の実施と問題点の改善について、改善に関する取り組み等は進められているが、継続性が不十分な部分も見受けられる。
今後の改善方策として、短期（年度）から中長期的に、改善すべき課題や問題点を洗い出し、優先順位の高いものから計画的・段階的かつ組織的に取り組んでいく。

項目 10　社会貢献・地域貢献について
・　項目評価　4.0
・　特に問題はなかった。

項目 11　国際交流について
・　項目評価　―
・　令和 4 年度の留学生在籍なし